

## 「未来へのステップ2016～1 / 2 成人式～」 （全35時間）

授業者 阿部 智

### 実践の概要

本単元では、10歳の節目になる4年生の児童に、将来への希望とそこまでの道のりを明確に想定し、20歳になったときの自分に向けてチャレンジしていこうとする意欲を高めていくことを目指します。

なぜ、このような単元を構想したのかといいますと、担任として、4年生の児童が、日々の学びを何ために行っているのか自覚できているかという点、どうもそこまでは達していないように感じていました。保護者との懇談でも、我が子の地に足が着いていないような学び方に不安の声が少なからず挙がっていました。実際に子供たちに聞いてみると、将来大人になったときの自分を、実感を伴って想定できているかという点、確かではないことが分かりました。

そこで、将来の自分の姿を想定し、そこに向けて今の自分が何をがんばればいいのか、少しでも明確に考えることができるきっかけとなる授業を作りたいと思い、本単元を構想しました。ポイントとしては、自分のことをいかに見つめ直すか、ということと漠然とした「将来の夢」やそれに向けて努力することについて、明確にするために視覚化を図ることです。加えて、多様な年齢の人生の先輩から「言葉」をもらうことで、考える「種」にすることもポイントの一つです。

### 授業のねらいと展開

本単元のねらいは、子供たち自身が、自分の未来を想像し、そこへ向かってチャレンジしていくために、周囲の大人などに話を聞き、そこから得られた情報を効果的に整理・分析することで、今の生活を見直すことができるようにするところにあります。

よって、展開としては、まず子供たちが自分の未来について思い描く取組を行います。これを明確に思い描くためには、その未来像の根拠をはっきりさせていかなければなりません。そこで、自分とはどのような人なのかをまとめるために「自分新聞」や「コンセプトマップ」を作成します。次に、明らかにした自分像と想像した未来像をつなげるための活動を行います。具体的には次項以降を参照ください。

本単元では、将来の自分について考えるという、形に表すことが難しい題材を扱っています。よって、少しでも子供たちが考える材料を提供できるように、1/2成人式を経験した学年や中学・高校生、成人式を迎える20歳の人、そして既に大人になっている保護者などから、アンケートをとりました。ここで得られた言葉は、子供たちが将来の自分について語る言葉に大きな影響を与えると考えたのです。

この単元の終末では、本単元を通して気付いたことや身に付けたことをまとめ・表現する場として、1/2成人式を開催します。ただ単に思いつきの将来の夢を語るのではなく、しっかりとイメージを深め、実行力のある未来予想図を胸に抱え、保護者やお世話になった人たちに自分の考えを主張します。

これらの活動を通して、自分の未来を自らの力で想定し、そのための展望を子供たち同士で伝え合い、認め合うことで、共に力を合わせてこれから学んでいこうとする姿が見られるのです。



【自分新聞を作ろう】



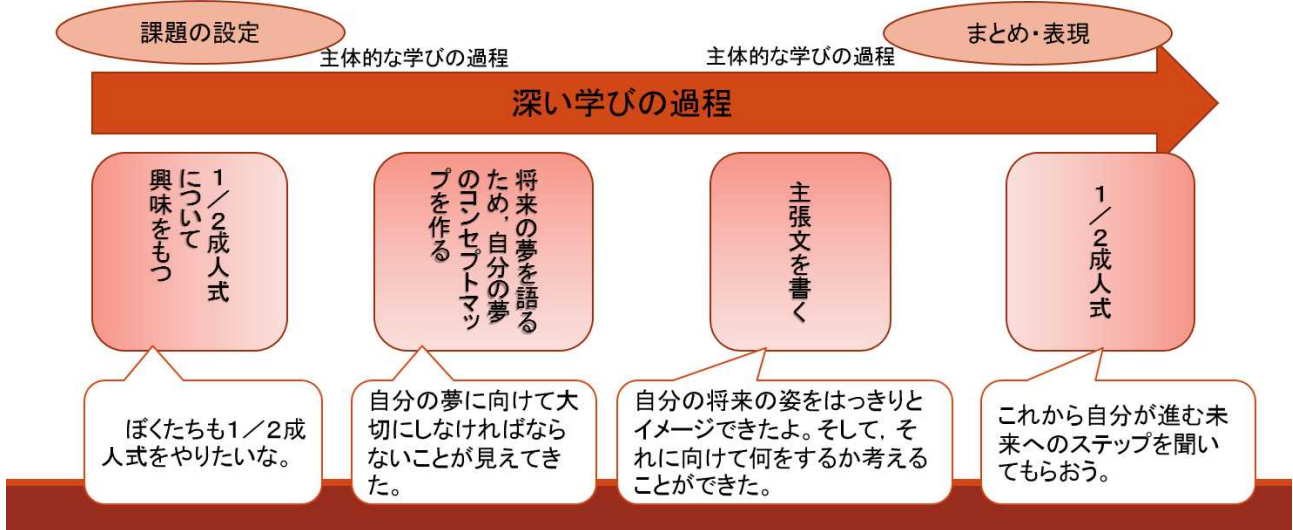
【大人になってどういふことが考えよう】



【将来の夢についてのコンセプトを作ろう】

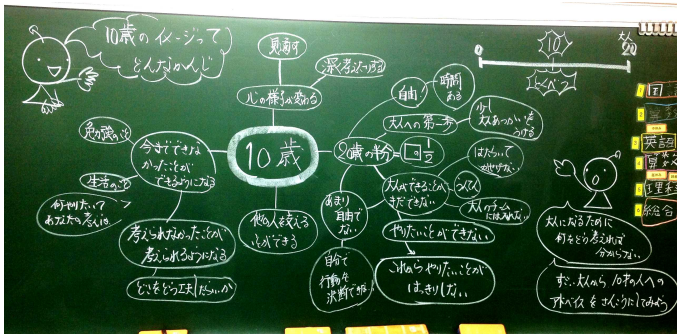
視点1：学びの文脈のある単元を構想する

# 視点1 子供が学びの連続性、必要性、関連性を自覚しながら学ぶ 学びの文脈



【本実践における「学びの文脈」のイメージ】

子供たちが、学ぶ切実感をもって主体的に学ぶ姿を実現するためには、学びの連続性、必要性、関連性を自覚しながら学ぶことができるよう、「学びの文脈」のある単元を構想します。総合的な学習の時間においては、探究的な学びのプロセス（課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現）を基にこの文脈をつくり上げていきます。このプロセスの中で、大切に扱いたいのが課題設定にかかわる部分です。総合的な学習の時間の場合、突然のように学びの課題が子供たちの前に登場してくるわけではありません。日常生活の中や子供たちの関心事などの中から「知りたい・学びたい」という欲求が起ることによって、「学習」としてスタートします。今回の単元で言う「学習」とは、1/2成人式に向けての一連の活動を指します。

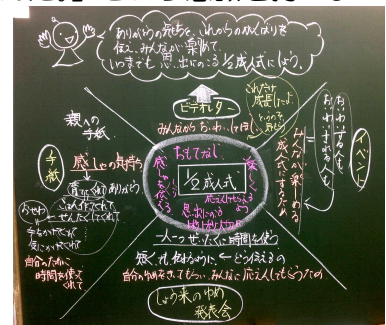


【10歳のイメージを拓げるためのイメージマップ】

うになりました。

このように、子供たちの中で「特別な10歳」という位置付けができた状態で、成人式との出会いを設定しました。それは、子供たちの中から「特別な10歳をお祝いしたい。」という考えが始まっていたからです。今回は、研究大会とのかかわりから一般的な成人式と時期が合っていないだったので、動画を見ることで、成人式とはどういうものか知る機会を設けました。その動画には、成人式の活動の流れが紹介されているだけでなく、「自分の将来への展望」を語る場面や「お

この1/2成人式に向けての一連の活動を、切実感をもって主体的に学ぶようにするために、課題設定の前にいくつかの活動を設定しました。テーマは「10歳」ということに、子供たちが価値を見出すことです。イメージマップを活用し「10歳」についてのイメージを広げたり、10歳になるとはどういうことか、資料から読み取るなどの活動を行いました。これらの活動を通して、子供たちは「10歳って特別なんだ。」という意識を持つよ



【子供たちが見出した1/2成人式の構想図】

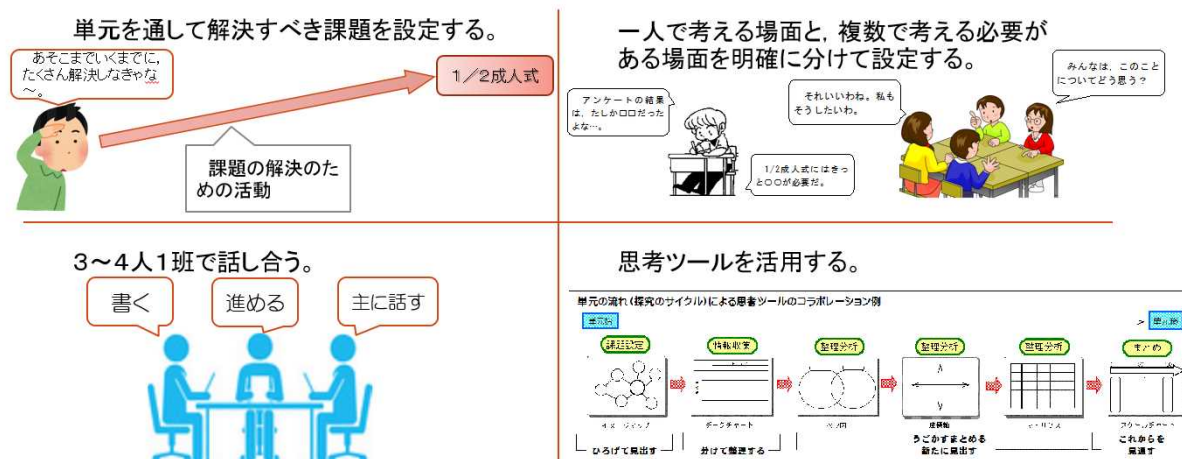


世話になった人への感謝のメッセージ」が紹介される場面がたくさんありました。このことに気付いた子供たちは、「ぼくたちも成人式をやりたい。「夢を伝えたり、家族やお世話になった人へ感謝の気持ちを伝えたりしたい。」という意見がたくさん挙がりました。こうして、「みんなに応援してもらえるような1/2成人式をやろう」という課題を設定することになりました。

この段階で、すでに子供たちの中には、1/2成人式を開催するまでのおおまかな見通しが出来上がっています。このような課題を設定することで、「学びの文脈」は自然と、しかも切実感をもってつくり上げられるのです。総合的な学習の時間において、この課題設定が大切なのだという理由はここにあります。

## 視点2：必要感のある協同的な学び

### 視点2 必要感のある協同的な学びの設定



#### 【本実践における「必要感のある協同的な学び」のイメージ】

本校では、必要感のある協同的な学びとは、子供が課題解決のために他者を求める学びのことを指しています。主体的に設定した課題をどのように解決していくことが、より切実感のある学びを生み出すのかは、場面によって様々です。しかし、共通して言えることは、子供同士がお互いの力を合わせてかかわり合いながら進める学びは、楽しく記憶に残りやすいということです。日頃授業中において、じっくり考える場面を設定した場合、押並べて「個」での思考活動が中心となるでしょう。じっくり集中して考えるためには、自己の思考を整理しなければならないと、指導する私たちは考えるからです。では、総合的な学習の時間ではどうでしょう。各教科と違い、主体的に見通しをもって設定された課題を解決していくためには、たくさんの考えを組み合わせたり、多面的に考えたり、俯瞰的に考えたりする必要があります。そのためには、子供同士でかかわり合ったり、専門家から話を聞いたり、自らインタビューに出かけ情報を収集したりします。そのような他者とかがわり合いながら活動していく中で、子供たちが切実感をもって主体的に学ぶことができるようになるために、私は4つの手立てを考え出しました。

一つ目は、子供たちが協力して単元を通して解決すべき課題を設定することです。前述した「視点1 学びの文脈」と重なる部分がありますが、学びが協同的になり、他者とかがわり合う必要がある学びを経験するようにするためには、子供たちが1人の力では解決し得ないと感じるような文脈をもった課題を設定することが大切です。本単元では、「みんなに応援してもらえるような1/2成人式をやろう」です。式を開催する段階で、子供たちは経験上多くの人たちとの協力なくして実現できないことが予想できます。また、「みんなに応援してもらえるような」という理念を掲げることで、子供たち個々人ではなく、集団としての活動である意識を高めることができます。

二つ目は、1人で考える場面と複数で考える場面を明確に分けて設定するということです。やみくもに「協同」だからといって集団活動一辺倒では、子供たちの切実感に寄り添うことができません。じっくり個で考える部分と、「必要感」があって集団で話し合うべき部分を子供たちと明確に分けて

自覚的に設定するのです。このような経験を積み重ねると子供たちは、別の活動の際「1人で考えたい」「みんなで話し合っ決めてたい」というような主体的に学びを創り上げていく言葉が出てくるようになることは、今までの私の実践で分かってきています。



【思考ツールを使って話し合う子供】

三つ目は、小集団（グループ活動など）での話し合いは、3～4人で行うということです。他者とのかかわりにおいて、子供たちが真剣に意見を交流できるのは、この3～4人だということが4年間の実践で見えています。ホワイトボード等にかき込む活動などは、グループで1つ作業台となる機があれば、子供たちがそれぞれが主体となってホワイトボードにかき込むために手を出せるので、必然的に話し合いが自分事になります。

四つ目は、思考ツールの活用です。これは、より協同的な学びを促し、学びを深いものにしていくための方法として取り組みました。思考ツールは、活動に応じた思考方法（比較・関連付け・多面的など）びに合わせて形作られた「思考の型」です。これを取り入れるだけでは協同的にはなりません。上記した3つの手立てが有機的に作用することで、この思考ツールという型が、協同的な学びとして効果を発揮することも、今回の実践で見えてきました。

視点3：目的に応じた弾力的な振り返り

## 視点3 目的に応じた弾力的な振り返り

### 「前時までの振り返り」

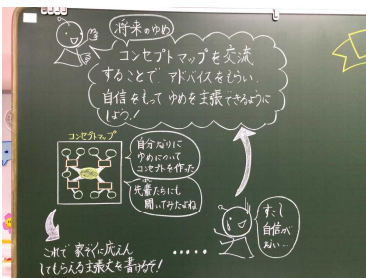
- 授業の開始期に行う。
- 前時までの学びを整理し、本時の学習とのつながりを見出す。
- **本時の課題設定に生かす。**

### 「本時の振り返り」

- 授業のまとめ期に行う。
- 本時の学びを整理し、次時の学習への見通しを見出す。
- **次時の課題設定に生かす。**

### 【本実践における「目的に応じた弾力的な振り返り」のイメージ】

学びの振り返りは、学習内容を確認するだけではなく、自らの学び（学びのプロセスや学んだことに対する感情を含む）を自覚化し、学んだ知識や理解を咀嚼しなおすことだと考えます。自らの学びを振り返ることで、そこから成果や課題を実感し、次なる学びへ進もうとする意欲を子供たちがもつよう、振り返りの場面や方法を工夫しました。



【本時の課題設定につなげるための開始期での振り返り】

本実践では、振り返りの目的を「学びを連続させる」というところに置きました。そうすると、1単位時間で考えた場合、前時からのつながりと次時へのつながりを考える必要が出てきます。そこで、授業の開始期とまとめ期に振り返りの活動を毎時間設定することにしました。

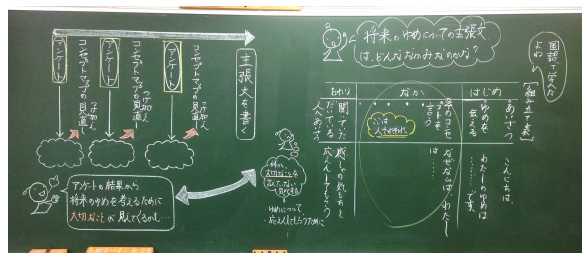
開始期での振り返りは「前時までの振り返り」とし、前時までの学びを整理し、本時とのつながりを見出す取組を行います。私は毎時間、板書を写真で記録しています。その写真を活用し、前時での学びのストーリーを子供たちと思い出しながら、前時での学びの大切な要素を



導き出し、本時の課題設定につなげていきます。

まとめ期での振り返りは「本時の振り返り」とし、本時の学びを整理し、次時の学習への見通しを立てる取組を行います。本時の中で単元を通した課題と照らし合わせ、その達成に至るまでの課題を見出すことで、次時の学習活動を子供たちと大まかに決めていきます。

このように、目的に応じて振り返りを設定することで、子供たちは本時のスタートから、目的意識をしっかりもって主体的に学びに向かうことができ、また、次なる学びへ意欲的に取り組もうとする姿勢を見ることができました。これらの振り返りは、時間をかけてしまえばそれだけで1単位時間を費やしてしまいかねません。ですから、前述の通り、写真を活用したり、前時の学びの記録を掲示しておき、それを活用するなど、効率的な取組が大切です。



【次時へ見通しを立てるための終末部での振り返り】

## 授業者からのコメント

### 総合的な学習の時間こそ、小学校から高等学校までを貫くアクティブ・ラーニングの要

すでに各学校で取り組まれている、アクティブ・ラーニングの視点に基づいた授業改善において、各教科・領域の子供たちの学びのどこをどのように改善すればいいのか。どこを改善すると、どのような子供の姿になるのか。また、どのような子供の姿を目指せばいいのか。これらの、アクティブ・ラーニングにかかわる根源的な疑問・課題で行き詰ったときには、ぜひ総合的な学習の時間の学び方をご参考にいただければと思います。

そもそも、アクティブ・ラーニングの視点での学びの姿である「主体的・対話的で深い学び」は、現行の学習指導要領において、すでに総合的な学習の時間においてその考え方と同様のことが載せられています。主体的な学びとは、学びのプロセスにおいて、対話的な学びとは、協働的（協同的）な学びの考え方において、そして深い学びについては、知識と知識、体験と体験をつなぎ合わせて概念化を図ろうとする、俯瞰的な見方や考え方において、それぞれ語られています。

本研究を通して、みなさんにぜひ知っていただきたいのは、アクティブ・ラーニングの視点での授業を行うには、特別な道具や設備は何も要らないということです。授業に際しての先生方の立ち位置を、子供の学びの外ではなく、ともに学んでいく仲間として、子供たちの学びの中におくことが、何よりも大切なことなのだと思います。

アクティブ・ラーニングは、授業改善の「視点」なので、アクティブに学ぶためには「何をしなければならぬのか」という手立てからスタートするのではなく、単元や1単位時間の授業をどのようにマネジメントしていくか、という考え方に力点を置くことが必要です。

### 本単元を通して、どのような資質・能力が身に付いたのか

その上で、本単元を通して身に付いた資質・能力について紹介したいと思います。大きく類別して2つ「学び方」と「態度」が挙げられます。（[総合的な学習の時間の指導案P1](#)をご参照ください。）

「学び方」については「課題解決のための有効な方法を身に付ける」「学習計画を立てる」「手に入れた情報を効果的に整理・分析する」という3つを挙げたいと思います。

まず一つ目の「課題解決のための有効な方法を身に付ける」ことについては、課題解決のための学びの見通しを立てる際に、その手立てを言うことができる姿のことを指しています。ですので、二つ目の「学習計画を立てる」ことと一体となっていると考えます。本単元において言えば、「将来の夢を主張しよう」という課題を設定したときに、どのようにすれば将来の夢を語るができるのか、子供たちが考え表現できる姿です。今回の実践を通して、これらの資質・能力を身に付けるために効果的だった手立ては、視点1「学びの文脈」と視点3「目的に応じた弾力的な振り返り」でした。総合的な学習の時間における学びのプロセスである「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現→…」を繰り返し経験することで、課題解決のための手順が見通せるようになりました。毎時間開始期とまとめ期で学びの振り返りをする際、これからの学びの見通しを立てるとき、学習計画を自ら立てることができるようになりました。また、課題解決のための有効な方法については、本単元を通して「人」を活用して解決していく方法を身に付けました。なかなか捉え難い自分自身についてのことなので、本などの資料だけでなく、経験者やいつも自分を見守っている人々とかかわり合うことで解決していくのが効果的だ、ということを経験的に身に付けることができました。これらの姿は、

他教科・領域での活動でもみることができました。

三つ目の「手に入れた情報を効果的に整理・分析する」ことについては、情報を「見える化」し、思考ツールといわれる枠組みなどを活用することで、情報から課題解決に向かうための概念を導き出す活動に取り組みました。「見える化」するための手立てとしては、具体的に言えば、自分自身のことを多面的に捉えるための「自分新聞」や、将来の夢を多面的に具体化していくための「コンセプトマップ」に取り組みました。「自分新聞」については、家族や友だちなどにインタビューをし、自分はどのような人間なのか情報を集約することで、どんな性格で、どんなよさがあるのかを見出すことができ、それが将来の夢についての根拠となるようにするものです。「コンセプトマップ」は、自らの将来の夢のコンセプトをひと目で分かるように整理したものです。なぜその夢になったのかを、多面的な観点で整理することで、自信をもって将来の夢を主張できるようにしました。このように、本単元を通して情報を「見える化」することで効果的に整理・分析する力を身に付けることができました。

次に「態度」については、「自己の将来を見通す」「互いのよさを認め合う」「自己の生活につなげようとする」という3つを挙げたいと思います。なぜこれらの資質・能力なのかと言いますと、1/2成人式にかかわるキャリア教育では、職業について追究していくイメージがありますが、小学校中学年段階では、まず自分自身のことを捉え、互いのよさを認め合い、今自分が置かれている環境の中でどのような努力ができるのか考えることを大切にするべきことだとされています。(\*1)

よって、本研究では、視点2「必要感のある協同的な学びを設定する」手立てを講じ、職業についてや周囲の大人の生き方などを追究していく中で、自分の将来についての思いを明確にし、そして一人一人将来への思いが違うことに気づき、それらを尊重しながら、これからの自分の生活について見直そうとする活動を取り組むことで、3つの資質・能力を育むことを目指しました。

具体的には、先述した「自分新聞」や将来の夢に対するコンセプトマップの取組や人生の先輩方からのアンケートを整理・分析することで、自分の将来の夢の明確化を図りました。また「自分新聞」やコンセプトマップを作成する過程で、KJ法的な交流の仕方でお互いのよさを交流しあったり、コンセプトマップを3人1組で交流する場を設けることで、積極的な交流が促され、多面的な視点で自らの考えを見つめ直す姿が見られました。そして、「将来の夢主張文」を作成することで、その過程で、今までの活動を振り返り、将来に向けて今から何を努力していけばいいのか考えることができました。

これらの取組を通すことで、上記3つの資質・能力は育まれていきました。ある保護者からは、「今回の総合的な学習の時間の取組のおかげで、夢に向かうためにはしっかり勉強しなければならない、と主体的に家庭学習を始めました。」という言葉をもらいました。これは一部の意見ですが、確実に学びに向かう態度が育まれてた結果だと言えるでしょう。

## 参考文献

- 小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（2008年 文部科学省）
- 小学校キャリア教育の手引き（2011年 文部科学省）\*1
- 次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ（2016年 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会）
- 生活・総合的な学習の時間ワーキンググループにおける審議の取りまとめ（2016年 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会）